



2018年4月19日発行 会報第924号

今週のプログラム

(2018年4月19日 第924回例会)

卓話 「オートバイの話」

担当：山本雅之 会員

次週のプログラム

(2018年4月26日 第925回例会)

ファイアサイド・ミーティング

担当：水本 徹 会長

第923回例会 (2018年4月12日) の記録

<会長の時間>

水本 徹 会長

『日本音楽の再発見』（講談社現代新書462）という本の、作曲家 團伊玖磨さんと東京芸大 小泉文夫さんの対談集の中での話ですが、

ルバング島で小野田少尉が見つかったとき、30年も一人で暮らしてきたのに日本語がとても流暢でした。新聞記者がそのわけを尋ねると、「だって歌っていましたもの」と答えられています。孤独だからいつも歌を歌っていた、だから言葉はすこしも退歩しなかった、というのです。誰に聞かせるのでもなく、おそらく自分の魂を慰めるために、生きていくために歌は必要だった。その結果、日本語を忘れなかったのです。

「歌のコミュニケーションというのは日常の言語を超えた何かでしょう。」「通常のコミュニケーションと言語によるものですから、言語が否定される環境で歌が生まれてくるということかもしれません。」

普通の言葉では通じないと思われる相手 — 仏や死者や、目の前にいない恋人。そのために声明・鎮魂歌・挽歌・ラブソングが生まれてきた。メロディーをつけると自分の思いが相手に通じそうだと感じたに違いない（なので、恋人の前でラブソングを歌うなんて無粋なことはしないで・・・）。そんな意味で、お坊さんが唱えるお経も音楽として聞いてみてください。『退屈な』お経が違って聞こえてくるはずです。

<お客様> なし

<出席報告> 岸上和典 出席担当

会員数（内出席免除会員 1 名） 20 名  
本日の出席者数 18 名  
（内出席免除会員 1 名 名誉会員 1 名）  
本日の出席率 85.00%  
前々回（3 月 29 日）の修正出席率 90.00%  
3 月のホームクラブ出席率 81.01%  
3 月の平均出席率 89.87%

<ロータリー・ソング> 全会員

♪朧月夜

<本日のピアノ曲> 近藤 美里さん

♪ハナミズキ

♪La-La-Lu

♪酒と薔薇の日々

<幹事報告>

山本友亮 幹事

1. 次年度のプログラム（両面印刷）を全会員のメールアドレスに配布しました。次年度の予定をご確認ください。例会場掲示の今年度後期のプログラムも本日最新です。
2. 20 周年案内状の発送が始まりましたが、会員で、知人・ご友人に案内状を送られる方は、宛書きの入っていない案内状をお渡ししますのでお知らせください。
3. 5 月 19 日開催の高槻東 RC 創立 45 周年記念フォーラムへの参加を希望される方は本日例会中に申し込み表にご記名ください。
4. 第 4 四半期の会費請求書を全会員のメールアドレスに配布いたしました。5 月 11 日（金）までに納入をよろしくお願いいたします。
5. 本日の池田名誉会員の卓話資料を各会員のメールアドレスに配布しておりますのでご確認ください。
6. 本日例会終了後、理事会及び 20 周年委員会を「おしどりの間」にて開催いたしますので、理事役員・担当会員はご出席ください。

<2018.3.29 開催 次年度理事会報告>

水島 洋 次期幹事

1. 2018-2019 会長方針  
別の機会に藤田会長からお話をしてもらいます。
2. 年間休会日について
  - 定款に基づく年 4 回の休会  
2018.8.16. お盆休み 12.27 年末休み  
2019.1.3 年始休み 5.2 ゴールデンウィーク休み
  - 休日振替ルール適用による休会  
2018.11.22 11 月の例会は 4 回  
\*第 934 回～第 978 回 年間 45 例会
3. 2018.5.17 次年度活動方針アッセンブリー  
各委員長、会員皆さんの発表・発言をお願いします。

※スマイルボックス

大庭博子さま 皆様のお仲間に加えていただき誠にありがとうございました。  
藤田会員 池田名誉会員本日宜しくお願ひします。  
黒川会員 きょうは池田先生よろしく!!  
西本明文会員 出雲大社大変楽しかったが疲れました。  
山下・渡邊・池田各会員 コメント無し

※ロータリー財団

相原会員 渡邊会員、お世話になりました。  
藤田会員 今週は暖かくなっています。  
黒川会員 渡邊さんに御礼。  
高尾・山下各会員 コメント無し

※米山記念奨学会

藤田会員 渡邊会員、出雲お世話になりました。  
木下(健)会員 出雲お疲れ様でした。地震にはびっくりしましたが・・・  
黒川会員 楽しい移動例会でした。  
松田会員 出雲楽しかったです。渡邊さんご苦労様。  
山田会員 出雲大社様、ご縁をありがとうございました。  
相原・高尾・山本(雅)・山下各会員 コメント無し

※ラオス基金

黒川会員 今年はラオスへ行くそうです(加奈子さんより)。  
山下会員 コメント無し

※メイプル基金

藤田会員 山田会員卓話よろしくお願ひします。  
黒川会員 渡邊さん、出雲大社ではありがとうございました。  
水本会員 渡邊会員大変お世話になり有難うございました。皆様お疲れさまでした。  
水島会員 渡邊会員出雲では本当にお世話になりました。ありがとうございました。  
村田会員 渡邊委員長、出雲参拝お世話本当に有難うございました。楽しかったです。  
西本会員 渡邊会員出雲大社のご案内ありがとうございました。  
高尾会員 渡邊会員、出雲大社では大変お世話になり誠に有難うございます。  
渡邊会員 出雲例会 皆様ご協力ありがとうございました。  
山田会員 池田先生本当に有難うございます。卓話楽しみにしています。  
山本(友)会員 渡邊会員大変お世話になりました。ラーメンもごちそうさまでした。  
山下会員 コメント無し

2016年の暮れから2017年の始めにかけて京都市の中心域の町通をひととおり余さずに見て歩きました。民家の通庇の上に置かれている鍾馗の瓦人形のことを京都の住人は「鍾馗さん」と呼んでいます。鍾馗さんの数は見つけただけでも360体以上になりました。そして、小屋根の上には鍾馗さんだけでなく、鬼とか獅子とか狸とか猫とか、その他いろいろなものが置いてありました。今日はその中で象の彫り物についてお話します。

京都の町家の通庇の上には神獣の姿に彫られた象の木像が見つかります。日本人は昔から普賢菩薩を乗せた象とか二十四孝図の象など想像上の動物としての象の姿かたちを知っていました。ところで、日本人の多数が本物の象の姿を初めて見て知ったのはいつ頃のことなのでしょう。生きた象が初めて日本にやってきたのは室町時代で、江戸時代末までに前後6回あるそうです。

①1408(応永15) 若狭へ 中国船

②1408(応永15) 若狭へ オランダ船 足利義持に献上のち大蔵経入手のため朝鮮国へ

③1574(天正2) 博多へ 明船

④1574(天正2) 白杵へ 明船 虎と孔雀とともに大友義鎮が入手

⑤1597(慶長9) 交趾シナから 虎と孔雀とともに徳川家康が入手

⑥1728(享保13) 長崎へ 廣南からのトンキン船 雌雄2頭を徳川吉宗が発注して輸入

⑦1813(文化10) 長崎へ オランダ船 幕府へ献上を申し出たが幕府は謝絶

⑧1863(文久3) 横浜へ アメリカ船 江戸と大坂で見世物に出たので文献や絵画多数あり

このうち⑥回目享保13年の象(2頭のうち雌象は13年9月に死亡)は長崎から歩いて京都に入り、天皇の上覧を得たのちにさらに1か月を費やして江戸に着き、濱御殿で吉宗将軍にお目見得しました。

・ 天皇はどのように象を謁見したのか

天子さまの前に出るためには誰も格式に従わなければなりません。そこで象も位階を与えられました。「従四位廣南之白象」です。因みに、所司代は「四位侍従」、祇園会のお稚児さんは「五位少将」ですから「従四位」はその間です。そこで象は御所で御簾の中にお出ましの中御門天皇と靈元法皇に階の下に前脚を折ってひざまづいてご挨拶し、いただいた酒を何斗か飲み、饅頭を100個、ミカンを100個完食しました。天子さまも陪臣たちも大喜びで歌を詠んだり詩を創ったりして、それが『詠象詩』という本になって残っています(板元古義堂塾)。この時の様子が関西大学図書館所蔵の絵巻物(卷子本『象之絵巻物』)にえがかれています。

・ 庶民はどのように象を見物したのか

象が京のどの町筋を通ってきたのかはわかりませんが、伏見から来るとすると最短の竹田街道を来て洛中に入ったはずで、それから北に東洞院通をすすんで堺町御門あたりから御苑の中に入ったと推測できます。町奉行所はこのために町触を出しました。

「享保十四年四月町触

二階にて見物の議も苦しからず候 辻々にひかへ罷在候見物、通り筋へ少しも出張申さず候様に仕るべく候」

因みに、第八回朝鮮通信使上洛時心得では「見世棚ならびに二階にての見物仕候とも作法能 声高高笑指さしなど仕らず物静に見物仕るべく候」などとなっています。町触で2階からの見下ろしが明らかに禁止されていたのは天皇、上皇、官方の通行時で、幕府上使滞在時にも2階に人が常在しないよう規制されました。

葛飾北斎(1760~1849)の『北斎漫画』にはいくつかの象の絵があります。象が来たのは北斎が活躍したよりずっと以前ですから彼は当然生きた象がどのような形をした生き物なのかは知っていたはずで、享保のときの象の絵図も意識されています。その北斎が神獣の象の彫り物の形も正確にえがいているのです。(5)の絵がそうです。

(1) 北斎漫画十三編(1849 嘉永2)の 二十右及び十九左

(2) 北斎漫画八編(1818 文政1)の 十四右及び十三左

(3) 北斎漫画初編(1814 文化11)の 十四右

(4) 北斎漫画八編(1818 文政1)の 十九左

(5) 北斎漫画八編(1818 文政1)の 六左

私たちが現在京都の町通で目にすることができる象の彫り物はほぼ北斎描く(5)の形式に沿ったものです。